

第2回モラルサイエンス研究会 報告

道徳科学研究所
モラルサイエンス研究推進プロジェクト

7月7日、第2回モラルサイエンス研究会をオンライン開催した。

「歴史と倫理」という統一テーマのもと、道徳科学研究所の竹中信介研究員が「世代間倫理の基礎づけ1：「自然」の視点から」と題して、また宗像俊輔研究助手が、「反差別の倫理的基盤の模索：アメリカの制度的人種主義とレイシヤル・キャピタリズムを手掛かりに」と題して、それぞれ報告した。

研究会では、収奪や差別をめぐる問題の根底にある現代の資本主義のありようがテーマとなった。